

【実施日： 令和3年 3月 13日】

(評価基準) A：取り組みが理想的な状態 B：取り組みがほぼ出来ている

C：取り組みにもう少し努力が必要 D：今後十分な努力が必要

保育士 13名

自己評価の観点	A	B	C	D	評価
1 園の理念・保育方針の理解					
○園の保育理念や保育方針を理解している。	1	7	5		B
2 保育所保育指針の理解					
○保育所保育指針を理解していると思う	1	8	4		B
3 保育課程の理解					
○園の保育課程を理解していると思う。	6	6	1		B
4 子どもの発達援助					
○一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	2	9	2		B
○定期的に指導計画の評価・見直しを行いその結果を指導計画に反映している。	3	9	1		B
○指導計画を作成する際、園の理念や保育課程を基にして作成している。	1	9	3		B
○一人ひとりの子どもに関する発達状況、保育目標についての記録がある。	3	7	3		B
○一人ひとりの子どもに関する情報を周知している。	2	7	3	1	B
○一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実践について話しあう為のケース検討を必要に応じて実施している。	2	8	3		B
5 健康管理					
○保健年間計画に基づき子どもの健康管理を行っている。	2	9	1		B
○身体測定や健康診断の結果について定期的に記録し、子どもの健康状態を保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	2	9	1		B
○乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防に努めている。	10	2	1		A
○感染症の予防に努め保護者にも伝達している。	4	8	1		B
○登園時は視診や検温により子ども一人ひとりの健康状態を確かめている。	7	6			A
6 食事					
○食育を通して子どもたちが楽しく食べ、その中で食べる意欲が育つように配慮している。	3	9	1		B
○調理担当者と子どものコミュニケーションが図れるようにしている。	3	7	3		B
○月齢に応じた食事の量や形態(固さや大きさ)を理解し成長を促すことが出来る。	1	10	1		B
○その日の喫食(哺乳量)を保護者に伝えている。	6	4	3		A
○食事のマナーの基本的な考え方を理解し、子どもや保護者に伝えることが出来る。	3	8	1		B
○保育士と調理担当者が積極的に意見交換をし連携しながら食育活動を行っている。		8	5		B

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
7 保育環境						
○気候や子どもの活動に合わせ、温度・湿度・換気などに配慮している。	3	9	1			B
○心地良く過せるように、環境を整えている。(清掃、整理整頓、室内装飾、作品展示等)		10	3			B
○屋内外の衛生面・安全面に配慮している。	3	9	1			B
○生活の場面に合った保育者の声、音楽などの音に配慮している。	5	5	3			A・B
○子どもが自ら活動を展開して行けるような場や空間の構成をしている。	9	4				A
○季節の変化に応じた環境構成をしている。		8	5			B
○子どもの動線や目線に配慮した環境構成をしている。	2	11	1			B
8 保育内容						
① 子どもへの理解と受容						
○子どもに分かりやすい温かな言葉使いで、穏やかに話している。	3	7	3			B
○抑制したり、せかしたりする言葉を必要以上に使わないようにしている。	4	6	3			B
○子どもの伝えようとする事に耳を傾け、何を求めているのかを理解し適切に対応している。	3	9	1			B
② 基本的生活習慣						
○基本的生活習慣については、一人ひとりの自主性を尊重し、家庭と連携しながら子どもの状況に応じて対応している。	2	9	2			B
○着脱の自立に向けて年齢や個人差に応じた介助や関わり方を工夫している。	4	7	2			B
○安心して休息〔昼寝〕が出来るように配慮している。	5	8	1			B
③子どもの活動への関わり方						
○子どもの発達段階に即した玩具や遊具を、質・量ともに適切に用意している。		10	3			B
○好きな遊びが自由に出来る時間やコーナーを用意している。		10	3			B
○身近な動植物に接することにより、命の大切さや季節感など豊かな感性を育むように配慮している。	3	4	5			C
○散歩などを通して地域の方々に接しあいさつや言葉を交わすなどしながら社会性を育む工夫をしている。	3	8	1	1		B
○絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	2	10	1			B
○身体を使った様々な表現遊びを取り入れている。	1	9	2	1		B
○様々な素材を使い、描いたり、作ったり、自由に表現できるように配慮されている	2	7	4			B
○年齢に応じ、順番を守る等の社会的ルールを身につけていくように配慮している。	5	7	1			B
○相手の気持ちが分かるような声掛けや働きかけをしている。	3	9	1			B
○色々な運動遊びを工夫しながら取り入れている。		10	3			B

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
④乳児保育						
○授乳は子どもが欲しがるときに抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている。	5	5	3			A・B
○離乳食については家庭と連携を取りながら、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	7	6				A
○オムツ交換の際は優しく声をかけたりスキンシップを取りながら行っている。	6	7				B
○一人ひとりの生活リズムに合わせて睡眠が出来るように静かな空間が確保されている。	3	9	1			B
○外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。	5	8				A
○乳児の発達段階を理解し、個々の成長や場面場面での適切な対応に努めている。	3	10				B
○特定の保育士との継続的な関わりが保てるように配慮している。	4	9				B
⑤長時間保育						
○子どものその日の様子を職員間で伝達し合い、連絡事項などを確実に保護者に伝えるようにしている。	4	5	4			B・C
○長時間保育で不安にならないように家庭的な雰囲気を作り、安心して過せるように配慮している。	3	8	1			B
○一人ひとりの子どもの要求に応じて声をかけたり、必要に応じ抱いたり等、ゆったりとした気持ちで接している。	5	8				B
9 安全・衛生・危機管理						
○危機管理意識を常に持ち緊急時への対応が整えられている。	2	8	3			B
○緊急な場合に備えての訓練や研修が行われている。	2	9	2			B
○事故防止、安全管理のためのチェックリストを使い定期的に点検、確認が行われている。	4	6	3			B
○食中毒や感染症予防の具体的な取り組みを行っている。	4	7	2			B
○園内に危険な箇所や物がないか、危険な遊び方はないか等、常に確認している。	2	10	1			B
10 守秘義務						
○職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。	9	4				A
11 保護者支援〔入所園児〕						
○個々の子どもの様子は送迎時に直接話したり連絡帳等を使い伝え合っている。	7	6				A
○クラスや子どもの様子、保育のポイント等をクラス便り等で知らせている。	4	9				B
○クラス懇談会や個人面談を行っている。	5	5	3			A・B
12 地域への子育て支援						
○子どもの発達や育児の不安等を気軽に相談できるように育児相談、栄養相談を行っている。	1	3	8			C
○一時保育の際、子ども一人ひとりに丁寧に接している。	3	9	1			B

自己評価の観点		A	B	C	D	評価
13. 特別な支援を要する子どもへの対応						
	○特別な配慮が必要な場合の対応がされている。	5	8			B
14. 保育の質の向上 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）						
	○保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	2	9	2		B

園全体の評価

- ・年間通して園の理念、保育方針等の理解が十分ではなかったことが自己評価だけではなく、第三者評価でも結果として表れていた。スタッフルームに掲示し意識できるようにしたが、職員の理解はまだ十分ではない。全職員が理解できるような研修を今後も行っていく必要があると感じた。
- ・自己評価の結果を期ごとに園内研修等で職員に知らせていったことで、評価が低い部分を意識して自主的に改善するようになった。その効果として全体的に評価が上がっている項目も増えたが、新型コロナウイルス感染症対策も大きく影響し、地域支援や子育て支援の取り組みができず、その項目に関してはC評価が多くなってしまった。
- ・地域の子育て家庭や、地域のニーズの把握が不十分であるために、職員全体としても理解した上での取り組みができなかった。継続しての課題となった。
- ・保護者支援や守秘義務、健康管理、子どもの発達援助の項目はAが付いている数が多い。特に子どもの発達に合わせた援助については、専門機関の指導を受けたことで保育士のスキルアップにもつながり、よりよい援助ができるようになってきている。その反面、年齢に合った保育環境について、職員の理解度が低いことが分かった。
- ・第三者評価を受審し、本園の改善すべき点と、自己評価で挙げた点を次年度は課題として取り組んでいかなければと感じた。

来年度の課題

- ・園の理念、保育目標の理解をもっと高められるよう、年間を通して園内研修で一つずつ事例を挙げながら検証し、保育内容にしっかりと反映できるようにしていく。また、会議前に皆で読み合せをし、常に意識できるようにしていく。
- ・カリキュラム会議の時間を設け、各クラスの取り組みを全体に伝え意見交換をし、保育課程や成長など学ぶ時間を作り、発達課程の理解や意識を高めていく。また子ども一人一人の姿の共有、就学へ向けて成長できるような保育を連続して行っていく。
- ・感染症対策上困難な環境ではあるが、食育活動の一つとして調理員と職員との連携作りを確立できるようにする。離乳食や喫食状況については連携が取れているが、食育活動では連携が十分ではない所もある。調理員がクラスに入り、喫食状況の確認、調理方法などの説明を行うことで、子どもたちも「食べてみよう」という意欲にもつながることが多いので、感染症対策の講じたうえで一緒に活動していくようにする。
- ・地域支援、子育て支援は感染症状況とニーズを鑑みながら、取り組めるものから始めていく。また地域との連携づくりの一環として、神奈川大学、地域ケアプラザ、近隣の保育園、小学校と交流をできる限り取り、地域と顔の見える関係づくりに取り組んでいく。

